

# 業務部速報



No. 76

発行 24. 3. 8

JR東労組 業務部

24  
春闘

## 申15号 2024年度賃金引き上げ等に関する申し入れ 申16号 2024年度夏季手当に関する申し入れ

第3回交渉  
その2

□主な組合の主張 ■主な会社の回答

### 【論点】 申15号・申16号の総論について

□第1回、第2回団体交渉の我々の主張を「受け止めた」と述べられたが、会社としてどのように内容を検討し、何を重視し、判断したのか。

■考え方は時々でブレるものでなく、一貫している。基準内賃金の引き上げは長期的な人件費に影響を及ぼすものであることから、将来にわたる生産性の向上を原資にすること。期末手当は直近の業績動向をベースにすること。その考え方の下、中長期的な経営見通しや、物価等の生活実態など様々ないただいた声も受け止め、総合的に検討して回答している。

□かなり踏み込んだ回答とあったが、何を持って、かなり踏み込んでいるのか。

■金額だけ見ればJR 兎足以降10,000円を超えるのは3回目だが過去最高の水準である。

□モチベーションの低下と離職者が後を絶たない危機的な現実を訴えてきた。

■この会社で働いていこうと思える状況にすることが大切である。

### 【論点】 一律ベアについて

□昨年も声があったが、なぜベアに差がつく所定昇給額を用いる判断になったのか。

■昨年も主張があったのは認識している。様々な状況がある中、職責の重みを加味して回答している。

□係職1等級と主幹職Aでは2600円の差が生まれる。

■構造改革等を進展させている中で人材育成や企画業務等、職責の重要性が増している。

### 【論点】 夏季手当について

□2.7ヶ月の回答の理由は何か。

■期末手当については直近の業績をベースに、中長期的な見通し等を勘案して総合的に検討してきた。営業収益は9割ほど回復しているが、それに見合った伸びに至っていない。いただいた声等も踏まえ総合的に勘案して最大限の回答をしている。

□営業利益をどのように戻していくのか、投資や経営戦略など具体策はあるのか。

■様々な生活ソリューションの取り組みや、何よりも鉄道の安全をトッププライオリティで守り、安全投資、耐震工事等の様々な投資、社員の皆さんの教育訓練などを通じて安全を守ることが何よりも増収になり業績につながる。

□要求月数からは乖離している。

■月数ではなく額を重視した。

### 【論点】 エルダー組合員について

□要求からかなり乖離している。社員の努力という点においても等しく努力している。現役と同等にすべきだ。

■主張は受け止める。様々な要素を踏まえ勘案して最大限の回答である。

### 【論点】 定期昇給カットの別途支給について

□定期昇給カットの別途支給の要求に対する回答はどうか。

■社員にも影響がでているということを含めて令和5年度の新賃金で示している。

□組合員・社員の「カットは忘れられない」という特別な思いを訴えてきた。特別な措置としてどのように検討したのか。

■当時の判断は必要な判断だった。社員の影響は認識している。しかし、措置する・別途支給する性格のものではない。

### 【論点】 第二基本給の凍結について

□制度としての役目は終えている。まずは凍結で求める。引き続き検討の課題である。

■主張は受け止める。退職手当、退職一時金は基本給を算定基礎として算出する。総体の関係性の中で判断していく。制度の見直しは考えていない。

### 【論点】 65歳定年制の導入について

□65歳定年制についての要求はどうか。

■70歳までの就業機会の確保に取り組んでいきたい。それ以前にも働き方や処遇改善にも取り組んでいく必要がある。

### 【論点】 回答日について

□集中回答日の問題や要求からしても、熟慮する期間はまだあるのではないか。

■社会情勢や世の中の流れを勘案してという議論は認識している。その中で熟慮した中で回答できる段階に至り、最大限の回答でかなり踏み込んで回答している。

**24春闘の今回回答に対し価値観を出し合おう!**